

エレクトロニクス分野におけるシミュレーション技術の進展論文特集の発行にあたって

エレクトロニクス分野におけるシミュレーション技術の進展論文特集編集委員会

委員長 柴山 純



製品開発を効率よく進めるためにはシミュレーションによる事前の検討が欠かせない。最近では比較的安価にソフトウェアが手に入り、産業界だけでなく、研究機関でも広く利用されている。市販ソフトウェアの信頼性が上がり、計算値と実験値が一致しない場合は、後者を疑うこともある、と耳にしたことがある。しかし、市販ソフトウェアでは扱えない問題を計算したい場合には、シミュレーターを自作せざるを得ない。特に、複数の物理現象を考慮したいいわゆるマルチフィジクスな計算や、大規模問題を扱う際の計算の効率化、また最適化手法を組み合わせた設計などの分野では、新しいシミュレーターの開発が依然として重要な研究テーマとなっている。

本特集は毎年継続して7回目となるが、今回もシミュレーターの開発・応用に関する多くの興味深い論文を御投稿頂いた。FDTD法の周波数依存化に関する招待論文に加え、一般論文5編、ショートノート5編が厳正な査読を通して採録された。産業のグローバル化が叫ばれ、情報の発信・受信は英語で行うことが多くな

ったが、最新の技術を日本語でわかりやすく伝えるのも、この国の技術発展において重要であると感じている。エレクトロニクスに関するシミュレーション技術の進展に関して、本特集が今後もその役割を果たしていくことを強く願っている。

最後に、本特集発行にあたり、投稿頂いた著者の皆様、適切な意見を頂いた査読委員、細かな作業を行って頂いた編集委員、大変な編集業務を統括し推進された編集幹事、ならびに事務局の皆様に、心よりお礼申し上げます。

しばやま じゅん
柴山 純 (正員) 平5法政大・工・電気卒、平7同大学院修士課程了、同年古河電気工業株式会社入社、光技術研究所勤務。平11法政大工助手、平27同大教授、博士(工学)。電磁界デバイスの数値解析の研究に従事。平25本会エレクトロニクスシミュレーション研究会より優秀論文発表賞(一般部門)、平29米国電気電子学会(IEEE)よりUlrich L. Rohde Innovative Conference Paper Award on Computational Techniques in Electromagnetics、同年International Symposium on Microwave and Optical TechnologyにてBest Paper Award、平30本会エレクトロニクスソサイエティ賞を受賞。IEEE、OSA、ACES各会員。

エレクトロニクス分野におけるシミュレーション技術の進展論文特集編集委員会

委員長	柴山 純	
幹事	江口 真史	
委員	萱野 良樹・毛塚 敦・五味 宏一郎・須賀 良介	
	陳 春平・日景 隆・中嶋 徳正・平野 拓一	
	藤田 和広・安井 崇	